

世間解

第四五六号

令和八（二〇二六）年 二月

発行 西法寺

念仏もうさるべし



二月になりました。皆さまには阿弥陀さまのご本願のおはたらきの中、「なん

まんだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏ご相続のことで存じます。

雪の深い一月でした。豊中におりますと「寒いなあ」だけで済みますが、雪

の多いところはほんとに大変な過酷な日々をお過ごしのことであろうと思います。

お見舞いしか申せませんが、みなさまお大切になさっていただきたいと存じます。

さて、先月は「未聞の益」ということに少し触れさせていただきました。

善導大師さまの『法事讃』というお聖教でこのお言葉に遇わせていただいたの

であります。改めてご拝読させていただきますと「未聞の益」というお言葉は

善導大師さまの『観經四帖疏』というお聖教にもありますし、また『法事讃』

には「未聞を聴く」というお言葉もありました。

「今まで聞いたこともない素晴らしい教え」であると解説がなされています。

「未聞の益」とは何でしょう、今まで聞いたこともない…。これは私の中からは

決して出てこない、私の経験や能力では決して考えることも知ることも出来な

いものということでありましょう。

実は私が今、「なんまんだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏が出来たり、「なん

まんだぶ、何かなあ」などと思えたりすることが、未聞のことなのであります。

私が未聞をお聞かせいただけただけその根源は、“お前さんを決して見捨てること

なく、必ず私と同じ覚りをひらかせてみせるよ”という阿弥陀さまのご本願のお

はたらきなのであります。

「未聞の益」私が今まで聞いたこともないことこそが私の“いのち”を根底か

親鸞聖人は主著である『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）の
総序（序文）に、

ここに愚禿釈の親鸞、慶ばしいかな、西蕃・月支の聖典、東夏・日域の

師釈に、遇ひがたくしていま遇ふことを得たり、聞きがたくしてすでに聞く

ことを得たり。真宗の教行証を敬信して、ことに如来の恩徳の深きこと

を知んぬ。ここをもつて聞くところを慶び、獲るところを嘆ずるなりと。

とご自身のお慶びをお示しくださっておられます。

親鸞聖人のお言葉を何度も何度もご自身でお聞きいただくようにお読みいた

ければと思います。

私に遇うことができるはずもないものに遇わせてくださる、または遇わせてく

ださったおはたらきがあり続けてくださったのであります。

私に聞くことができるはずもないものをお聞かせくださる、または聞いてみよ

うかと思わせてくださるおはたらきがあり続けてくださったのであります。

先月もお聞かせをいただいたことであります。私が聞いたこともないことに

遇わせていただくのは“聞かせていただくこと”の他にはないのであります。

今まで聞いたこともないこととは、今まで意識したこともないことです。

「私の“いのち”の意味と行き先」をお考えになったことがあるでしょうか？

お同行、みなさま方の聞法の道場である西法寺を住職としておあずかりして

いる私はおかげさまで今年の一月で満六十五歳を迎えさせていただきました。

前住職の清観が臨終を迎えたのが六十五歳でした。お寺をお預かりする者と

して、何かしらの感慨を覚えます。

本当に、おかげさまで、私は坊守や若院家族に支えられて有り難いことにな

とかお念仏の日暮らしをさせていただいております。

その元は、やっぱり阿弥陀さまのご本願のおはたらきなんやなあ…とそんな事を

味わうことの出来るお育てをいただいたのだと思っています。

その阿弥陀さまのおはたらきと自分自身の“いのち”の意味と行き先を一緒に

お聞かせいただき「未聞の益」にうるおわせていただきます。是非、是非、

「未聞の益」に遇うために一度、西法寺の御法座にお参りください。 合掌